

公益財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 横田 格 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 750 千円	
研究代表者 : 藪谷 祐介	所属 : 学術研究部 芸術文化学系	職位 : 講師
研究題目 : 伝統的町家セルフリノベーションの教科書開発 —高岡市吉久における学生シェアハウスづくりを通して—		

研究概要

空き家となった伝統的町家を草の根的に保全する方法として、使用者が主体的に空間のありようや改変の仕方について考え、自らの手によって改修するセルフリノベーションがある。これは、コストを削減しながら、個別事情に合わせた空間の実現が可能であるが、知識・技術未熟者の実践する上では専門的知識が必要があることが障壁となり得るため、今後、セルフリノベーションによる活用をより多く促すためには、コストを最小限に抑えながら、必要な居住性能を獲得するためのセルフリノベーションの手法開発と、それを知識・技術未熟者にわかりやすく伝えるツール開発が必要である。

そこで本研究では、筆者が公民学連携でまちづくりに取り組んでいる高岡市吉久において、伝統的町家を学生シェアハウスとして活用するための必要最低限のリノベーションを実践する。それを通して、最小限セルフリノベーションの実践知を体系的に整理し、伝統的町家をセルフリノベーションすることによる可能性と課題を考察する。さらに、その成果をもとに初学者でも実践可能なセルフリノベーションの教科書を作成し、富山県内を中心に広く発信することを目的とする。

高岡市吉久にある伝統的町家・旧藤田邸を対象に、大工さんや左官屋さん等の職人にレクチャーを受けながら、①内窓・網戸ワークショップ、②床断熱ワークショップ、③左官ワークショップを実施した（写真1）。ワークショップにおいて観察調査を行いながら基本情報（使用材料と材料費・必要工具・作業時間）、セルフリノベーションの実践知（手順・作業内容・職人による指導内容）を記録した。また、ワークショップ終了後には、施工の専門家にヒアリング調査を行い、指導内容・要点、安全に配慮する点、指導が難しかった点・課題、その他気づいた点について把握した。さらに、居住学生に対して、学びになった点、わからなかった点、居住しての感想、断熱性能についてアンケート調査を実施した。

成果要約

計3回のワークショップを開催し、観察調査・ヒアリング調査・アンケート調査を実施した結果、①生活空間を最小限に抑えて暮らすことができること、②セルフリノベーションを通して地域とのつながりを創出できること、③知識・技術未熟者である学生たちが職人に指導をしてもらうことで知識・技術を獲得し持続的にセルフリノベーションを実施できること、④空間への愛着形成や魅力的な内部空間や街並みの形成に寄与できること、以上4つの可能性が示唆された。

一方、①本研究では建築を学問として専攻している学生だったため、ワークショップの準備や設計、当日の作業が円滑に進んでいた部分は考慮する必要がある点、②教科書のみで一般の人が行えるのかどうかは課題であり、教科書とワークショップを組み合わせたハイブリットなセルフリノベーションを行うことが望ましい点、③数値的な費用対効果を算出することができなかったことから、今後は様々なパターンの内窓や床断熱の施工方法とそれに係るコストを検討し、温熱環境の変化を数値的に測る必要がある点、以上3点が課題として挙げられた。

さらに、観察調査・ヒアリング調査をもとに実践知を整理し、その結果を用いて「セルフリノベーションの教科書」を作成し、Web ページ (<https://researchmap.jp/yabutani>) で公開した (図 1)。



写真 1 セルフリノベーションワークショップの様子

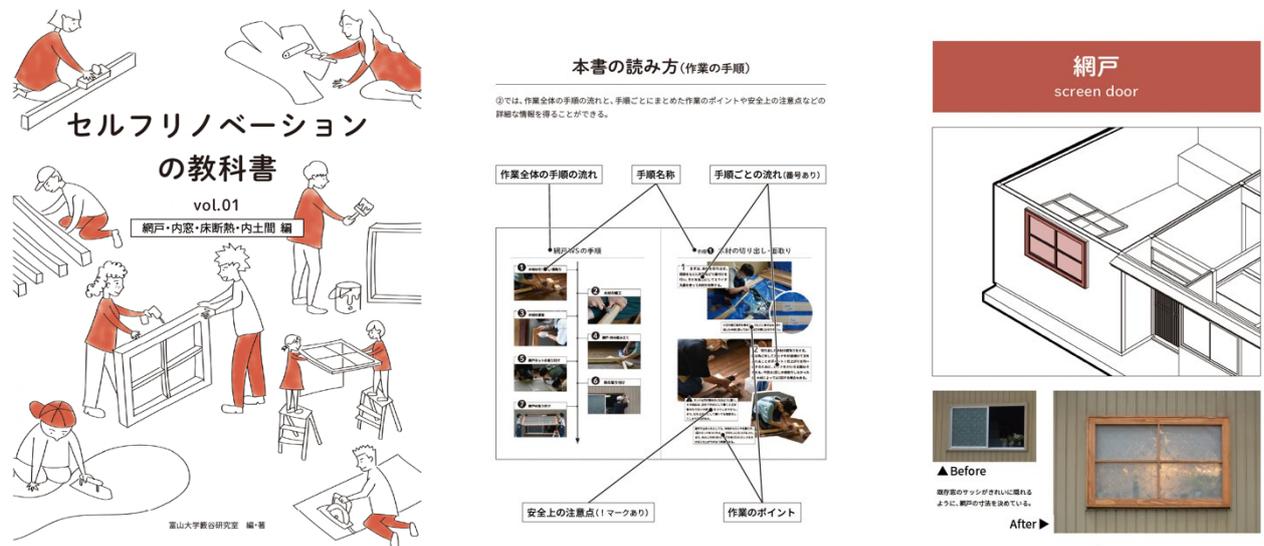


図 1 セルフリノベーションの教科書 (1部抜粋)

研究成果 発表状況	【雑誌論文、学会発表、図書、新聞掲載、作成 Web ページ、特許権等の出願・取得状況】 制作した「セルフリノベーションの教科書」を Web ページ (https://researchmap.jp/yabutani) で公開した。		
経費の 執行状況	区 分	執行額 (円)	備 考
	【物品費】 断熱材 52,767 合板 71,764 木材 145,376 ポリカーボネート 30,294 ワークショップ用消耗品 186,989 【謝金】 ワークショップ指導謝金 (3 回分) 75,000 教科書作成補助 185,640 【その他】 書籍 2,170 合計	750,000 円	25,000 円×3 回